

の 広報 たかもり

発行 阿蘇郡高森町役場 TEL (高森局09676) ②0611 [代表]

人口

—— 7月31日現在 ——

人口 9,987人男… 4,818人
女… 5,169人
世帯数 …………… 2,625
転入 40 出生 6
転出 33 死亡 6



279
人が受診、喜ばれる

町内各地で老人病健診

としておくと役立ちます

第181号
昭和49年

9月1日

9月15日は敬老の日、老人病予防対策の一環として、町では、さる7月22日から8月1日まで町内七会場で、65歳以上のお年寄りを対象に無料健康診断を実施しました。

日ごろ診療を受ける機会に恵まれない草部、野尻地区では受付開始前から大ぜいの人々が詰めかけるなど、この健診に279人が受診しました。阿蘇保健所高森支所嘱託医の小林医師はじめ、同保健所の検査技師、町の保健婦など8人が、全員に検尿、血圧、内科検診などを、また、異常のある人には心電図をとりました。

診察を受けたお年寄りたちは、「無料でこんなに精密な健診を受けられてうれしい。もっと体を大事にしなければ」と話していました。

おもな内容

- あなたの老後を保障する国民年金……………(2)
- 南阿蘇畜協で赤牛全国研究会……………(3)
- 「風鎮祭」どっと2万人……………(4)
- 高森その歴史……………(5)
- みんながつくる町民のひろば……………(7)
- 町民文芸・おめでた・おくやみ……………(8)

▽ 9月29日	▽ 9月22日	▽ 9月15日	▽ 9月8日	▽ 9月1日
中松 ⑦本 〇〇医 〇院	下田 ⑦後 〇〇藤 〇医 九院	上町 ②本 〇〇田 〇一医 六院	横町 ②小 〇〇林 〇七医 五院	白川 ②寺 〇〇崎 三七医 八院

日曜在宅医

あなたの老後を保証する「国民年金」

あなたのご家庭は国民年金に加入していますか。国民年金はあなたの生活を保障するため、国が責任をもって運営するものです。最大の利点は、少ない掛金で多くの年金を受けとることができるという点です。一カ月九百円(現行)を六十歳まで納めると、納めた月数によって違いますが、最高月額三万七千六百六十円を六十五歳から一生暮らしに受取ります。ひと月でも早く加入された方がお得です。未加入の方はさっそく町民課窓口で手続きをしてください。

△20歳から必ず加入を△

国民年金は、あなたの生活を保障する制度ですから、職場で厚生年金や他の公的年金制度に加入していない人は全部加入できます。そのうち、必ず加入しないといけない人は農業、商業、サービス業、自由業、無職の人などです。希望で加入できる人は、サラリーマンの奥さん、昼間の大学生、年金や恩給をもらっている人などです。加入できる条件は、いずれも日本国民で二十歳から六十歳までの人となっています。

65歳から生涯「給付金」



少ない掛金、楽な余生

国民年金に加入していると六十五歳になったとき老齢年金を受け取ることができるのは当然ですが、日常生活が困難な身体障害者になったときには障害年金を、柱となる夫に死なれれば遺族年金となるときには母子年金を、年金に加入している父母がなくなったとき残されたお子さんに遺児年金を

受取る年金額は物価の変動に応じてふえていきますので安心で

す。本年も九月からは給付額が大幅に引上げられましたが、皆さんから納めていた保険料は月九百円から千円(五十年一月から)へと二・二割の引上げに止まっています。では、いったい年金額はどのくらいもらえるのでしょうか。あなたが保険料を納めた月数に九百二十円を掛けた金額が年金額となります。保険料と年金額が今のままで変わらないうと仮定して計算してみます。今年二十歳になった人は六十歳になるまで四百八十カ月(四十年)九百円を納めるわけですから四八〇〇〇円(四三三、〇〇〇円)となります。一年にもらう年金額は納めた月額九百二十九円ですから四八〇〇〇円×九百二十九円＝四四五九二〇〇円、月額三三、一六〇円。これを毎年生涯もらい続けるわけですから、いかにお得な年金かがご理解いただけると思います。

△保険料で施設づくり△
しかも、皆さんが納めた保険料は国が必ず、公園、水道、学校など公共施設づくりに利用されています。ほんとうに有益な相互協力の制度といえるでしょう。



隊員と懇談する会員たち

町の自衛隊父兄会総会開く

高森町自衛隊父兄会(佐藤武之会長、六十人)の四十九年度総会は、七月三十日鍋の平キャンプ場に会員や来賓約五十人が出席して開かれました。子弟を自衛隊に入隊させている父兄の集まりで、入隊中の子弟を暖かく支援激励して自衛隊の発展を図るのが目的です。総会では四十八年度の事業報告と決算を承認したあと、四十九年度の事業計画と予算案を採択。引き続き会員たちは熊本市子供会のキャンプ支援で同キャンプ場を訪れていた健康駐とん地の自衛隊員と懇談、隊食を食べたり、無線電話で遠くの部隊にいる子弟と話をするなど楽しいひとときを過ごしました。

南阿蘇畜協で赤牛全国研究会

本町の「福花号」も出陣

全国から200人参加 体型資質など観察

「肥後の赤牛」で知られる湯(かつ)毛和種の改良促進全国研究会(日本あか牛登録協会主催)が、八月八日本町の南阿蘇畜協で開かれました。

これは国の新しい肉用牛の改良増殖目標にそって、赤牛の形質遺伝状況や交配の適否などを検討、優良種雄牛の確保を図ろうと八月六日球磨郡錦町を振り出しに行わ

れたもので、本町の会場には全国から参加の研究員百二十人のほか一般見学者約二百人が参加しました。同畜協からは「福花号」(九歳)など種牛一頭、これと交配し

アジアの青年「同士」で

「国際交歓キャンプ」開く

鍋の平

アジア青年と、本町の若者たちによるキャンプ交歓会が八月十五日から二泊三日の日程で開かれました。

これは日本健全青年会本部(津留今朝寿本部長)・日本海外協力隊

学生、それに本町の二子石青年団長、役場の若手職員らを交えた四十二人が参加、まず同キャンプ場の入村式を行い、主催者側からあいさつがありました。

このあと、テントのそばに車座をつくり、スィカを食べながらお互いの国の農業問題やアジアを中心とした世界の動きについて意見を交換、身近な話題についても話をはずませました。なかには羽織はかまの姿で日本酒をふるまう青年もあり、留学生の参加者たちは「ドウモアリガトウ」とりゅうちょうな日本語で答えています。



農地等の無断転用やめよう

県農業会議からの通達によると農地法による農地等の山林転用許可申請は「八月一日現在の無断転用者は、すみやかに正規の書類を添えて申請すれば許可されますが九月以降の無断転用は相当厳しい措置がとられる」ということです。農地等の無断転用は絶対やめましょう。

本河原の住民が農免道整備

が農免道整備

大字河原、本河原地区の住民、後藤来さん(六〇)ら二十一人は、交通事故防止を合い言葉に河原農免道路沿いに生い茂った雑草の草刈り奉仕をしました。同道路は昨年三月に全線開通した野尻―高森を結ぶ最短路線。沿

道には人家がほとんどないため、道路両側には夏草が背丈ほどに伸び、カーブの見通しを悪くしていました。そのうえ、さきの集中豪雨による災害で、国道猿丸―柳谷間が不通となり、最近はいり回り路として県内外の観光バスやマイカーの往来が激しく、交通事故が心配されていました。

このため、本河原地区ではドライバーが安心して運転できるようにと、自主的に草刈りの労力奉仕を決めたもので、後藤さんらは手に払いガマ、草刈りガマを持って集まり、河原―上玉来間約二・五キロを一日がかりできれいにしました。

畜協で開かれた研究会



らアジア各国男女十人の在日留

「風鎮祭」どつと二万人

造り物23基「美」競う

本町恒例の「風鎮祭」(町および商工会主催)は、八月十七、十八の二日間とも雨雲に覆われた悪天候でしたが、仮装行列や踊りなど多彩な催しが繰り出され、県内外の観光客も含め、約二万人の人出でにぎわいました。

ことに「風祭り」の天気。伝統の造り物はことし二十三基が町の随所に勢ぞろい、町並みは赤、黄、青と色とりどりの三角旗が飾られ、早朝から威勢のいいハッピー姿の若ものや花笠をつけたかわいい踊り子たちが町を練って祭り気分を盛り上げました。

用品を使った「きじ」、剣道具や野球道具を巧みに利用した「コオリギ」など趣向をこらした豪華な造り物が、二日目の十八日夕方五時から目抜き通りをシャミ、太鼓のハヤシに合わせてパレードしました。



雨の中の造り物行列



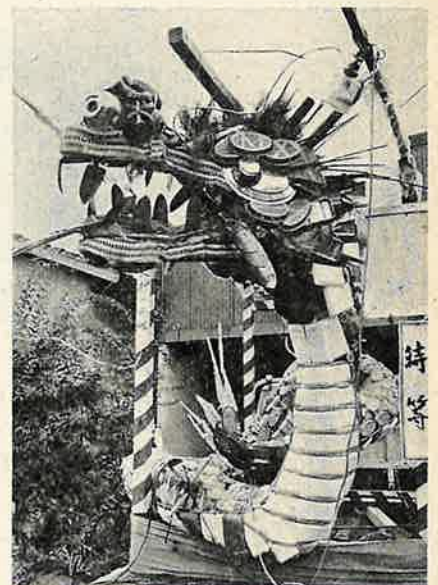
移動にわかに観衆は大喜び。深夜までにぎわいました。



総勢九十人の役場職員による手踊り



「節刀渡し」の儀式。年番が旭通向上会から上町向上会へ渡されました。



特等になった天神1、2組の踊り龍

高森その歴史

<18>

執筆 者

今村俊男

島津の侵攻と勇将甲斐宗運

浜町を回復した阿蘇大宮司惟豊は、天文年間には皇居御造営の費用を後奈良天皇に奉ったこともあり、永祿ころには子惟将が大宮司となった。

甲斐宗運は御船城にいて、阿蘇氏は大友氏の力を背景に薩摩の島津氏と対していた。しかし、大友氏の勢力が弱まると、天正九年八月島津義久は肥後に入り、九月には相良義陽を八代古麓城に囲んで降伏させ、義陽の軍をもって御船の甲斐宗運を攻めることを命じた。

相良義陽は宗運と同盟を結んで強敵島津に相対していたが、今はやむなく、天正九年(一五八二)十二月一日出陣にあたり、八代妙見社に参り「宗運との約束やぶる罪お許しあれ、義陽の命なきものとおぼし召せ」と自分の心を慰め、島津勢の先となって御船に向い、その兵は八百であったという。これを知った宗運は相良軍を途中で迎え、二百の兵で豊野村ではさみ討ちにし、相良軍は大敗、義陽も討ちとられた。有名な響の



勇将 甲斐宗運

原の大合戦である。

宗運は阿蘇家が安全なためには相良氏が島津氏との間にたてていることが必要であり、義陽の首が宗運の前に運ばれた時、はらはらと涙を流し「肥後も早やだめである。わが阿蘇家も三年とはもつまい」と歎いたという。阿蘇氏のたのみとする勇将宗運は天正十一年に病死し、子宗立が後を継いだ。その翌年、島津氏は竜造寺氏を島原の戦いで敗り、天正十三年八月までには阿蘇氏の城である御船、木山、津森、甲佐、堅志田など、

益城地方の要地をほとんど落城した。阿蘇家は天正十二年八月惟種二十四歳で病死、当時、わずか四歳の太田宗茂は、女および二歳の弟惟善とともに目丸の山中にかくれ、ようやく命を拾うことができた。当時、南郷には浜の館の外城として南郷七城があり、薩摩に對したが大軍の前にはほとんど落城し、肥後の諸将も島津に降った。しかし、その中で大友氏をたのみ阿蘇家のために節を曲げず、最後まで島津の大軍と戦ったのが高森田の城にこもる高森伊予守惟居(通称惟直)であり、ここに高森城合戦が始まるのである。

〔注〕 南郷七城の七城とは、必ずしも数を限定したものでない。

みんなの説法

ある湖に年老いた亀が住んでいました。ある夏、長い干ばつが続き水もかれ果てようとしたため、どこか水はないものかと探し回りましたが、自分の力では遠方に行けず見つけることができません。

古亀は「自分の命もこれまでか」と覚悟しました。

ところが、ある日、湖に大きな亀が降りたちました。亀はこれこそ天使の降来と、よろよろしながら鶴のそばへ歩みより干ばつの惨状を訴え、自分を水のあるところへ連れて行ってほしいとたのみました。

情け深い鶴は、早速、亀を口にくわえて空に舞い上がり水の

ある方向へと飛びました。亀は

口は災いのもと

「寸註」 ものいえば唇寒し秋の風一釈尊も妄語、綺語、両舌、悪口の四つの口の過ちを説いて戒めています。世の中の悲劇や不幸が軽率な言葉の不注意から起きていることを今一度考えましょう。

天正年間には矢部「浜の館」の外城として次の諸城があった。――①高森城(一名山の城) 高森伊予守惟直②村山城(平山城、山平城) 村山丹波守家久③市下城(城が嶽城) 市下大和寺④久木野城(桜山城) 二子石九郎左エ門⑤峯城(鶴翼城) 中村伯耆守惟冬⑥下久木野城 久木野隼人守⑦下田城 下田左エ門尉能統⑧駒堀城 久木野備前守⑨長野城 長野起前守⑩吉

田城 吉田主水頭 高森田の城は外輪山城山の一、三方は岩壁そびえ、本丸の跡は五、六畝程で大手門の跡、西方に石垣崩れ落ちていたが、まことに要害堅固の山寒地、高森町上在尺司の上、内山の池から約二、三、現在、雑木、雑草に覆われて見ることができないが、ここが三度の合戦に島津の大軍と戦った高森伊予守惟直の居城の跡である。



カット絵は高森小 1年 岩下賢一君

十七日に巡回 交通事故相談

県主催による九月の巡回事故相談が、来る十七日(火)午前十時から午後四時まで一宮町の県阿蘇事務所で行われます。

相談を受けられる方は、交通事故証明書、医師の診断書、その他の関係書類が手元あれば持参してください。

ご存知ですか 振替納税制度

所得税など税金を納めるときは振替納税制度という便利な納税方法があるのをご存知でしょうか。

これは、電気代やガス代の支払いと同じように、銀行などの金融機関に支払いを頼んでおきますと

みなさんの預金口座から自動的に納めることのできる方法です。この取扱いをする金融機関は銀行、信用金庫、信用組合、農業協同組合などです。

手続きについては、税務署か金融機関の窓口でご相談ください。

写真集「阿蘇」を出版

高森町など阿蘇の自然を対象に四季にわたって撮影を続けていた内野望氏(肥後銀行大阪支店勤務)の写真集「阿蘇」が出版されました。

B5判(二五七×一八二)、美麗ケース入り、オールカラー一八二ページ。価格は一万二千元。ご希望の方は見本が役場に置いてありますので、ご覧になって近くの書店で買い求めください。

家じゅうの電 気が消えたら

まずリミッターをみて下さい。リミッターが切れていたらご使用中の器具の一部をコンセントからはずし、リミッターのツマミを「入」の方へ倒して下さい。

それでも点灯しない場合は隣り近所をみて下さい。近所も消えていて、他の地区がついていたら、お近くの九州電力営業所か営業店の窓口へ「隣り近所も消えている」とご連絡下さい。修理に伺います。△九電高森営業所

中学卒業の認定 試験を実施

病気などやむをえない事由で、義務教育を受けられなかった人に、対し、中学校卒業程度の学力があるかどうかを認定する国の試験が

蚊取り線香の買いおき

蚊取り線香は除虫菊から取り出されたピレトリンが主成分で、これは半年から一年たつと効力が半減します。せっかく

歌会始めの お題は「祭り」

五十年歌会始めのお題、および詠進歌の詠進要領が次のとおり宮内庁から発表されました。

△お題は「祭り」歌句に(さい)とよみ込んでもよく、活用形として用いてもよい。また祀(まつる)という文字を用いてもよい。

規程ある団体生活で技術、責任感、根性を身につけることのできる自衛官。いま第二次の募集中です。資格は十八歳から二十五歳未満の男子。中学卒業程度の学力による簡単な筆記試験、口述試験、身体検査が行われます。詳しい説明をお聞きになりたい方は役場総務課へおいでください。

自衛官を募集

安く買っても使用する時の効力が半減しているのでは、ちっとも得にはなりません。蚊取り線香は、ほんの一例にすぎませんが、時期物(特に消耗品)の安売りの買いおきには十分注意しましょう。

みんながつくる町民のひろば



このらん「声」はみなさんのページです。よりよい高森を築くために建設的な意見を

めぐり来た 玉音放送の日

下町 二子石 開(72)

昭和二十年の八月十四日は三十二度の暑さでした。明十五日正午に重大放送(内容不明)があるとラジオ放送は中止され、連日の

爆音もなく無気味のうちに夜を迎えました。私たちは一階事務室で当直中、突然二人が室内にはいり点灯するようにいうので、灯火管制中だからだめだと断ると、責任を持つからという押問答の末、電

感激した「働く若 人の集い」県大会

豊前屋 河内元子(22)

勤労青少年の日の「働く若人の集い」の県大会が、七月二十、二十一日の二日間、県立天草青年の家で催され、私は町を代表してこれに参加することができました。

式典のあと作文発表、講演、キヤンドルの集いなどあり、ふだん若者と接する機会の少ない私はいろいろな悩みや夢を語り合うことができた期待以上の成果を得ました。なかでも、鳩野所長さんの講演で「若い」ということはすばらし

奥さま インタビュー

津留 平
甲斐富美子さん(24)

大字津留の平で農業を継いで頑張っている若い奥さん、甲斐富美子さんを自宅にお訪ねしました。

△「わが家の農業を継ごうと決心された理由は―「昨年八月、父が亡くなったことがきっかけです。高校卒業当時は都会での就職にあこがれを持いましたが地元郵便局のアルバイトや家業の手伝いをやっているうち自然に恵まれた私たちの町が大好き

畜産は主に自家飼料

△「最後に敬老の日に寄せてひとこと―「最近核家族という言葉が使われるように、家庭的な愛情は失われ、お年寄りに対する観念が薄らぐように思われます。人生経験豊かな老人は人生の指導者であり、おろそかにしてはならないと思います。老後を支えるものは若人です。その日だけの敬老会でなく、心はいつも敬老の日でありたいものです」



町民文芸



俳句

菓の花句会八月例会作品抄

(アイウエオ順)

踊りの輪たび行く車暫し止め
熱演の祭若衆雨の中
接待の厨に祭囃聞く
茄子漬の紺すがすがし朝の膳
盆まいり本家の座敷賑やかに
火山灰(よな)払い高原キャベツ出荷かな
帰省子に豆煮る匂い夕まぐれ
洗はれて朝日眩しき母の墓
灯籠の明りに涼し造り滝
蛸の声に晩鐘余韻消ゆ
ふるさとの盆花赤し墓の道
空一面降る星のごと揚花火

肥後狂句

御神火会七月例会入選句

強さ強さ、世論に耳ア貸さっさん
おっちょこちょい、たしなめらるる夜伽酒
強さ強さ栓抜イさす糸切り歯
おっちょこちょい配達先ア聞いとらん
囲まれて、涙で入るるダルマの目
連休明け、家計簿つくる手の重さ
よか眺め、五岳にかかる虹の橋
連休明け、魚拓の増ゆる応接間
尻、見事に並ぶ汐干狩
よか眺め、ゲートボールも夫婦連れ

岩下 扶美
内田 あや子
桐原 寿
柴田 ふい子
住吉 ながえ
那須 きぬ子

岡本 琴司
浦塚 南夫
馬原 馬築
林田 一
林田 瑤子

雑詠

風鎮の揃い浴衣に雨しとど
祭終え安堵の湯浴み虫すだく
屋久島のなまりにも馴れ墓まいり
法師蟬話とぎれし時しきり
台風を鎮めて終わる祭の儀
夫は子を子は母誘い遠花火
庭の草茂るにまかせ共稼ぎ
阿蘇荒れて夜干しの梅のよなかぶる
よな降らぬ今日美しき夏の雲
梅干して土用の母の恙なく

草部 今泉多美江(82)
。とし多に御守りませゆくす多
をみいずかがやく吉見大神
。かしこみて神の御前にぬかずけ
。ば人に見せぬなみだこぼるる
。けふよりは神にまかせし吾ゆく
。手心もはるる三五夜の月
白蓮

夏花五首

下町 山村 将護(24)
。古への手弱女ぶりもさながらに
。撫子の花楚々と咲くなり
。奥津城の御霊祭に供へむと
。おちこち生ふる彼岸花かな
。峠路を吾が越へ来れば山百合の
。花岩膚に群れてにはへり
。姫百合の花はひそけく高原の
。風に揺られて咲くが清しも
。根子岳の麓をよぎる朝霧に
。濡れて咲き居りキスゲ花かな

ご寄付

ありがとうございます

次の方々から心暖かいご寄付をいただきました。

▽色見、山鳥の工藤シメ子さんか
ら(公昭さん・43歳ご死去)

林 久恵
平田 るり子
古庄 泰子
松岡 のぶ子
山村 ふみ子

▽草部、小崎の佐伯誠喜んからさ
(マツエさん・92歳ご死去)
▽尾下、下山の甲斐一さんから
(スエカさん・66歳ご死去)
▽高森、昭和の山村静風さんから
病氣見舞いの返礼として。以上
町社協分

▽高森町青年団から
町の災害復旧の一部に、とダン
スパティの益金をご寄付いた
しました。

▽尾下、片山の古沢一喜さんから
尾下小へ。(トメジュさん・81歳
ご死去)
▽草部、社倉の大内田 伝さんか
ら草部中へ。(スミ子さん・40歳
ご死去)

おめでた おくやみ

出生	出生	出生	出生	出生	出生
(住所)	(保護者)	(出生児)	(性別)	(生年月日)	
森	山邊	徳久	小代子	女	49. 7. 9
下町	渡邊	五喜	浩	男	49. 7. 25
〃	山村	法雄	章	男	49. 8. 4
尾下	瀬井	幸次	浩	男	49. 7. 20
死亡	死亡	死亡	死亡	死亡	死亡
(住所)	(遺族)	(続柄)	(死亡者)	(年令)	(死亡年月日)
上在	松本	等妻	松本フミ子	33	49. 7. 16
〃	〃	長女	松本優美子	11	49. 7. 16
山鳥	工藤シメ子	夫	工藤 公昭	43	49. 7. 29
草部	佐伯 辰雄	妻	佐伯マツエ	92	49. 7. 29
中	矢津田郭富	2女	矢津田由香利	1	49. 8. 4
草部	大内田 傳	妻	大内田スミ子	40	49. 8. 14
尾下	古澤 一喜	母	古澤トメジュ	81	49. 7. 21
〃	甲斐 一	妻	甲斐スエカ	66	49. 7. 26
河原	後藤 寒	2男	後藤 孝二	24	49. 7. 22